

乙訓地域の縄文世界

京都大学文学研究科附属
文化遺産学・人文知連携センター
千葉 豊

1. 縄文時代・文化の枠組み

- a. 時間的枠組み 始まりの年代／終末の年代
- b. 空間的枠組み 縄文文化はどこまで広がっているか
- c. 土器が重要視される理由 縄文文化は縄文土器文化である

2. 乙訓地域の縄文遺跡を群として理解する

- a. 京都盆地の縄文遺跡
- b. 比叡山西南麓縄文遺跡群 近畿地方を代表する縄文遺跡の宝庫
- c. 乙訓地域縄文遺跡群 比叡山西南麓に匹敵する縄文遺跡群

3. 伊賀寺遺跡から考える文化の諸相

- a. 集落の時期的変遷
- b. 大型石棒（中期末）と
玉作り（後期後葉）にみる地域間交流
- c. 焼人骨（後期後葉）は何を語るか



図2 縄文文化の地理的範囲
(国立歴史民俗博物館 2001『縄文文化の扉を開く』)

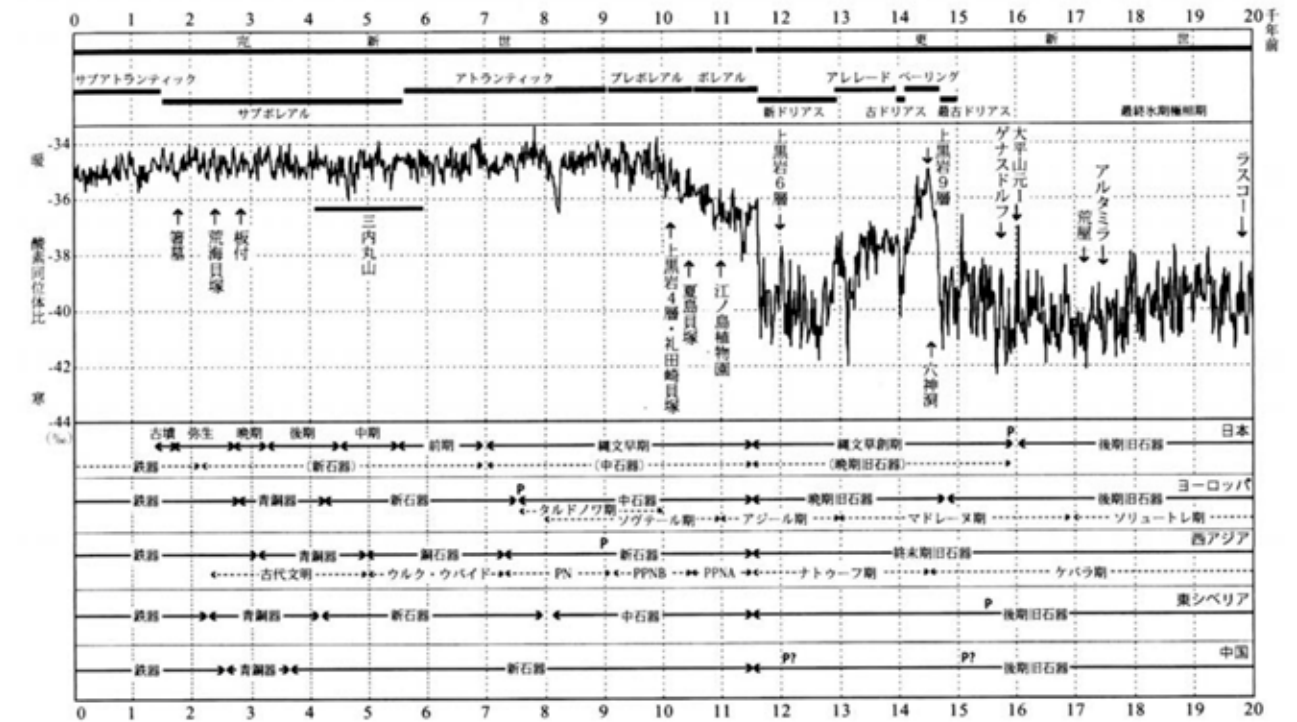


図1 更新世／完新世の酸素同位体変動（気候変動）と日本・ユーラシア大陸の考古学的区分（Pは土器の出現を示す）
（春成秀爾ほか『愛媛県上黒岩遺跡の研究』国立歴史民俗博物館研究報告154、2009年）

表1 縄文土器編年表(『日本考古学事典』三省堂、2002年所収の表に、炭素14較正年代を加筆)

[illegible]

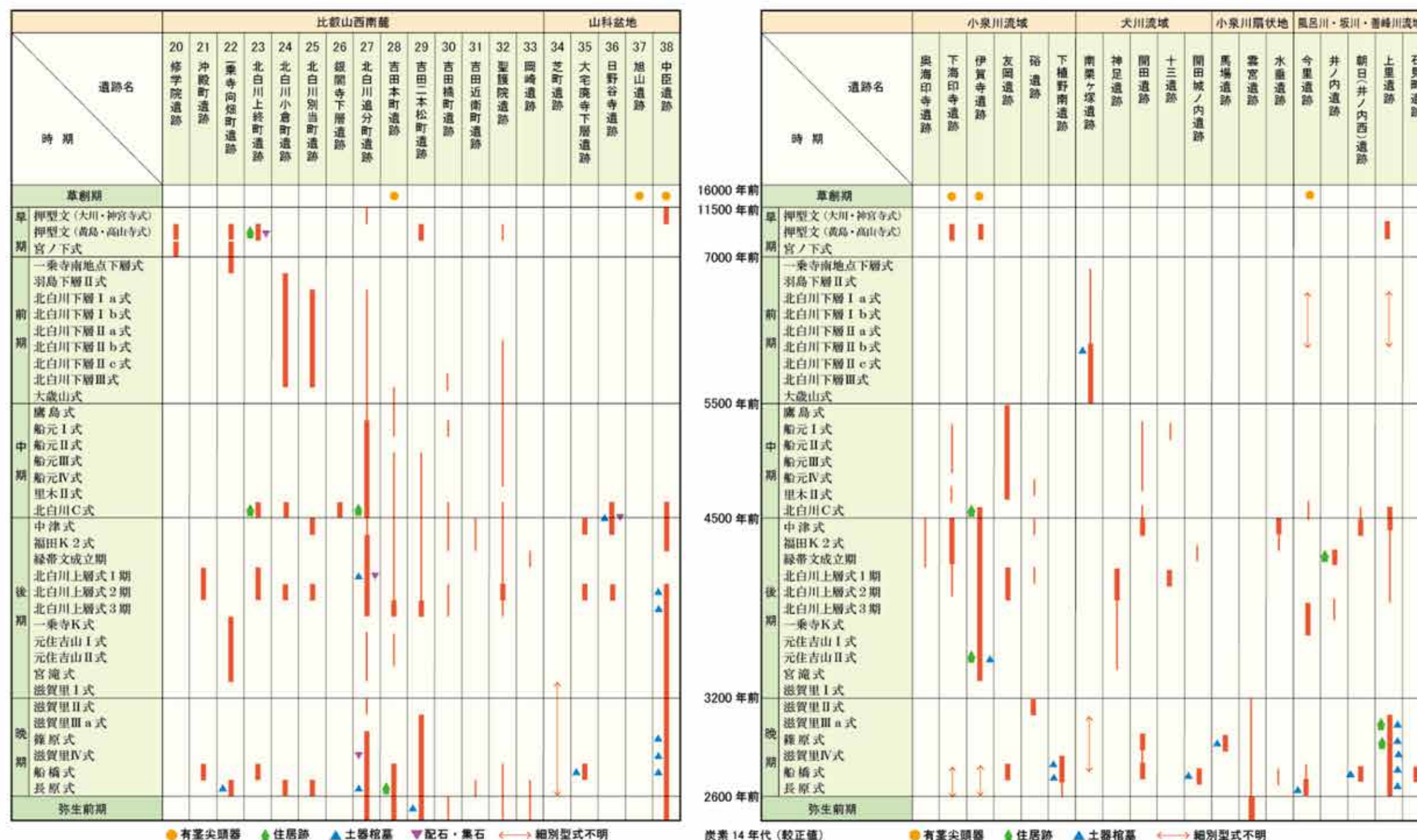


図3 遺跡の移り変わり(左:比叡山西南麓地域、右:乙訓地域)

遺跡から出土した土器型式に基づいて、その遺跡がどの時期に利用されていたのかを示した遺跡の消長図である。土器型式とは、年代を示す最小のまとまりで、近畿地方で現在一般的に使われている型式を左の欄に配列している。あわせて、住居跡や土器棺墓、配石・集石などの遺構が見つかる場合は、所属する時期の脇に記号で示しておいた(凡例参照)。時間の単位を示す土器型式は、『日本考古学事典』(2002年)に準じたが、草創期は土器の出土が見られないため略し、早期の土器型式も主要な型式のみに限定した。

土器型式名の北白川下層式(前期)、北白川上層式(後期)、一乗寺K式は比叡山西南麓の遺跡、滋賀里式(後期末・晩期)は比叡山東南麓の滋賀里遺跡出土資料が基準資料となっている。この地域の土器が編年研究において重要な位置を占めていたことがわかる。

比叡山西南麓では、前期以降、この地域で定着した生活を営んだ集団の存在が読み取れるが、後期末晩期初頭(滋賀里Ⅰ式～Ⅱ式)の時期は遺物がほとんど見られなくなる。東側の滋賀里遺跡で遺跡の規模が大きくなることと対照的である。この時期の遺跡が見つ

かっていないだけなのか、あるいは一時的にせよ、縄文集団はこの地を離れたのか、今後の調査課題である。

乙訓地域の遺跡の消長は、岩崎誠「乙訓における縄文遺跡の消長」(第17回 京都府埋蔵文化財研究集会資料集、2010年)に掲載のデータから、長岡京市を中心とする主要遺跡を抽出した。比叡山西南麓同様、前期以降、この地で定着した生活を営んだ集団が時的に生活拠点をかえながら存在したことが読み取れる。遺跡の増減する時期が両地域で連動していることも想定できる。

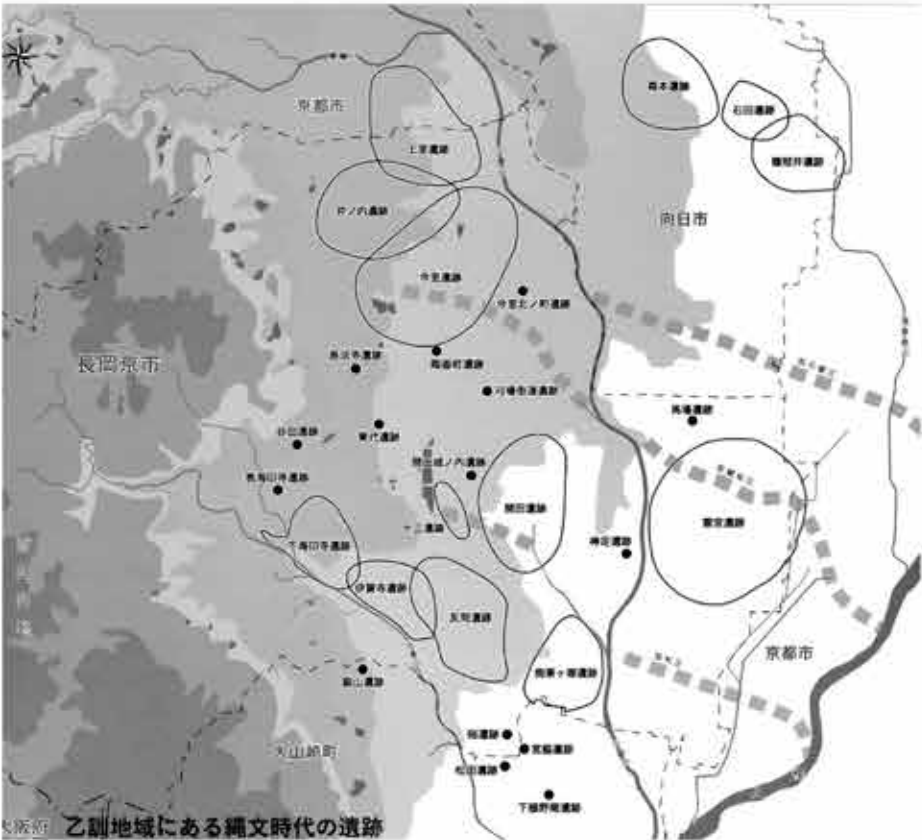


図4 乙訓地域の縄文遺跡分布図（令和7年度企画展パンフレットより）

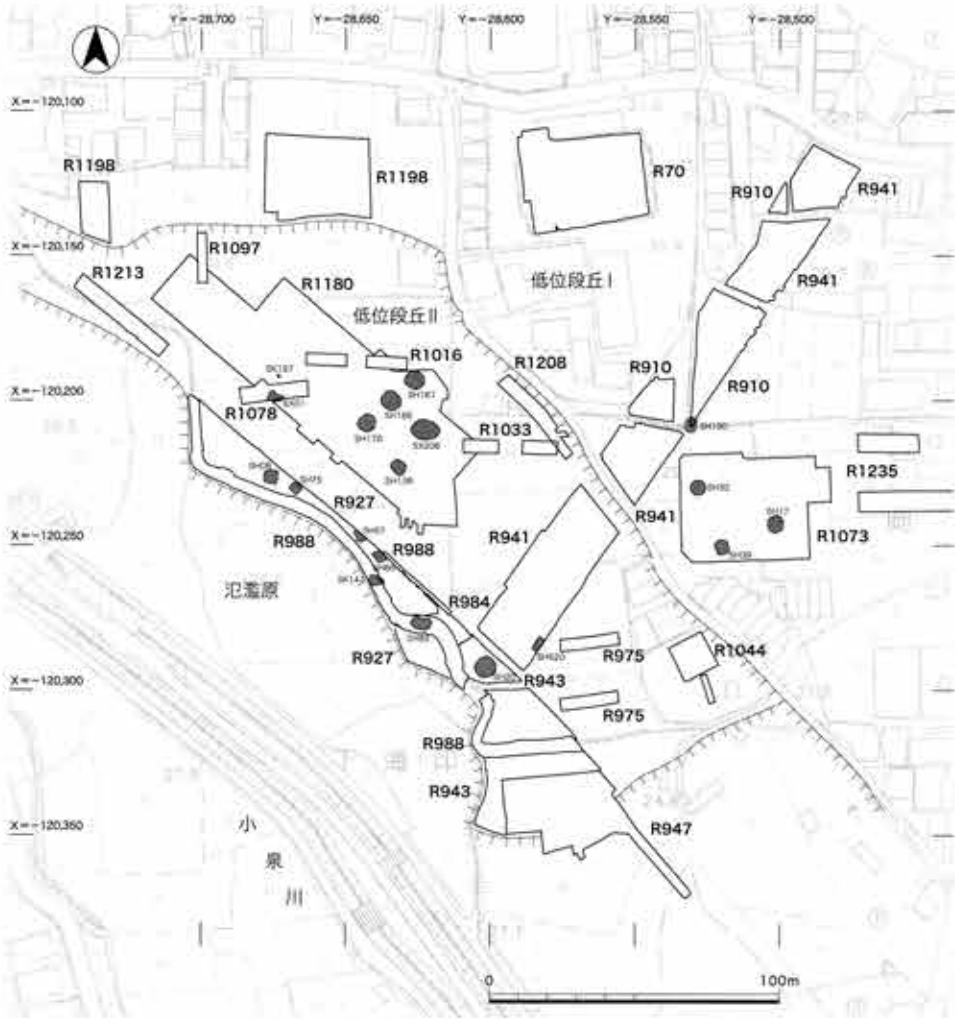


図5 伊賀寺遺跡の縄文中期末の住居分布（長岡京市埋蔵文化財調査報告 第58集）

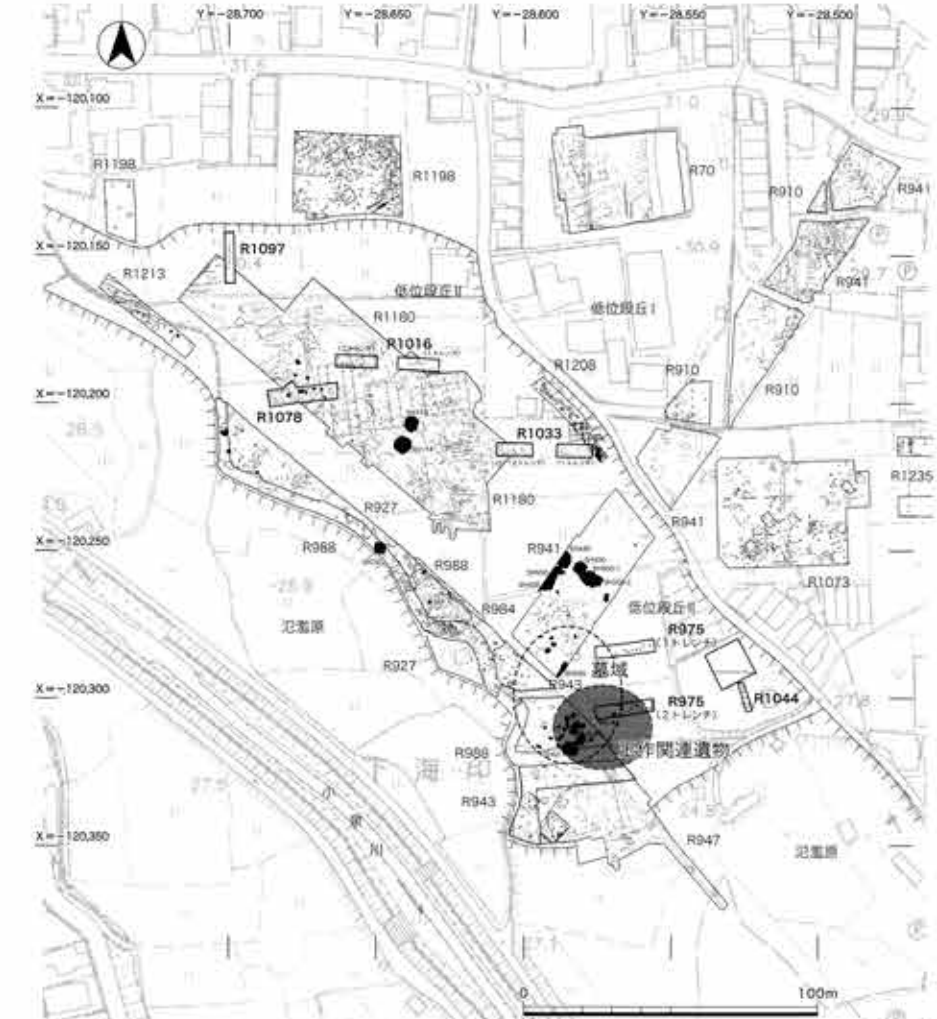


図6 伊賀寺遺跡の縄文後期の主な遺構（長岡京市埋蔵文化財調査報告 第79冊）

表2 伊賀寺遺跡出土玉類の石材判定

No	遺跡	種類	測定番号	石材
22	平	管玉 A	HEI-002	クロム白雲母
	平	小玉	HEI-004	クロム白雲母
23	伊賀寺	小玉	IGJI-001	クロム白雲母
	伊賀寺	小玉	IGJI-002	クロム白雲母
	伊賀寺	小玉	IGJI-003	クロム白雲母
	伊賀寺	小玉	IGJI-004	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-005	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-006	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-007	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-008	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-009	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-010	ヒスイ類似岩
	伊賀寺	石材	IGJI-011	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-012	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-013	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-014	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-015	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-016	ヒスイ類似岩
	伊賀寺	石材	IGJI-017	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-018	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-019	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-021	ヒスイ (O)
	伊賀寺	石材	IGJI-022	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-023	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-024	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-025	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-026	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-027	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-028	ヒスイ (O)
	伊賀寺	石材	IGJI-029	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-030	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-031	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-032	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-033	クロム白雲母
	伊賀寺	石材	IGJI-034	クロム白雲母

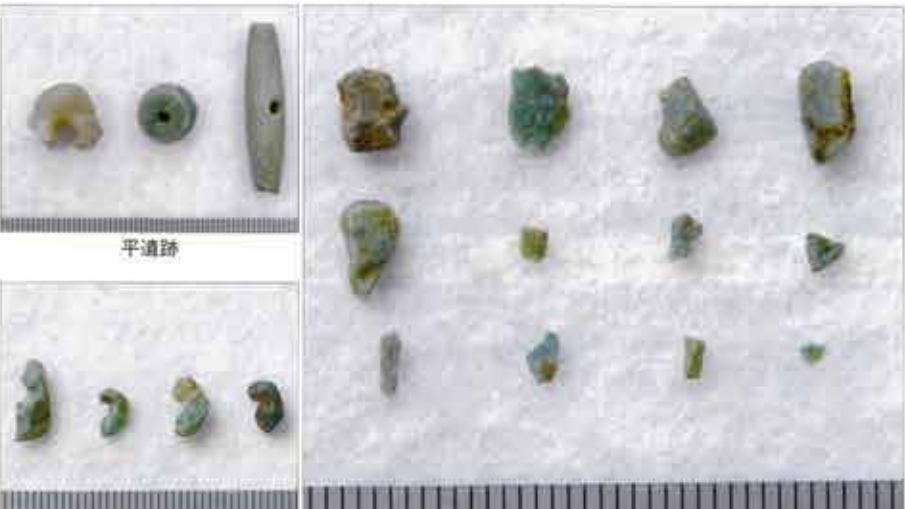


写真1 伊賀寺遺跡出土玉類

表2と写真1は、大坪志子『縄文玉文化の研究』2015年に掲載された伊賀寺遺跡から出土した玉類（小玉製品・未成品・原石）と、その石材判定の結果である。蛍光X線分析で33点分析した結果、クロム白雲母29点、ヒスイ2点、ヒスイ類似岩2点と判定された。大坪はその後、クロム白雲母の原産地が中九州（熊本県）にあることを突きとめた（大坪『三万田東原遺跡』同成社、2023年）。



写真2 伊賀寺遺跡、火葬墓S K03（京都府遺跡調査報告集 第133冊）